

Logisnext

2020年3月期第2四半期 決算説明資料

2019年11月28日
三菱ロジスネクスト株式会社





2020年3月期第2四半期 決算概要

三菱ロジスネクスト株式会社
代表取締役社長 御子神 隆

市場環境

- 世界経済は、先行きの見えない米中貿易摩擦の影響による製造業の不振を背景として、停滞感の強まりが顕著となっている。
- 加えて欧州のBrexitを巡る攻防や中近東に見られる政情不安などが加わり、先行きの不透明感は一層の高まりを見せている。日本は市場の減速こそ顕著ではないものの、消費税増税の影響を見極める動きなど、世界各国で投資活動への慎重な対応が散見されている。
- 物流機器市場においても、製造業を中心とした設備投資マインドの冷え込みを背景にやや翳りを見せており、予断を許さない状況である。

連結業績概要

- 売上高は円高による換算差と米州・中国の売上減が響き、前年比▲3.9%の減収。
- 営業利益は前期実施した販価改善効果の刈り取り、原価低減等が寄与したことにより、前年比+16.0%の増益。
- 2019年7月1日に全株式を取得したEquipment Depot, Inc.（以下、EQD社という）については、当社とEQD社との四半期連結決算日の差異が3ヶ月を超えないことから、EQD社の業績は第2四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書には含めず、貸借対照表のみを連結。

2. 決算ハイライト

(単位：億円)

損益計算書	2018年9月期	2019年9月期	前年同期比増減	
売上高	2,155.0	2,070.9	▲84.2	▲3.9%
営業利益 (のれん等償却前) (営業利益率)	87.9 (4.1%)	93.7 (4.5%)	+5.8	+6.6%
のれん等償却	▲44.0	▲42.7	—	—
営業利益 (営業利益率)	43.9 (2.0%)	50.9 (2.5%)	+7.0	+16.0%
経常利益 (経常利益率)	51.4 (2.4%)	47.9 (2.3%)	▲3.5	▲6.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	25.4 (1.2%)	20.9 (1.0%)	▲4.5	▲17.7%

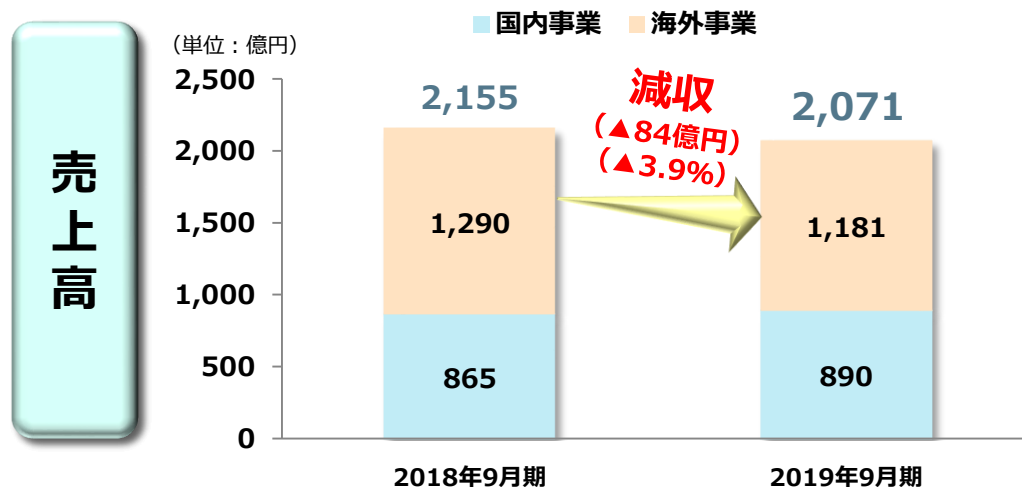
貸借対照表	2019年3月期	2019年9月期	前期比増減	
総資産	3,677	3,771	+94	+2.6%
総負債	2,992	3,124	+132	+4.4%
純資産	685	647	▲38	▲5.5%

2019年3月期実績レート：USD = 110.91円 EUR = 128.41円 CNY = 16.54円

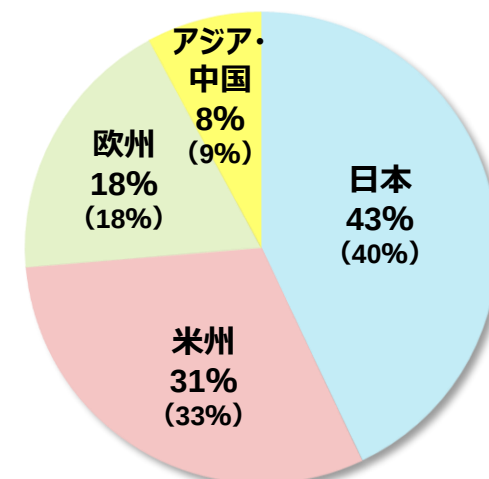
2019年9月期実績レート：USD = 108.63円 EUR = 121.42円 CNY = 15.68円

3. セグメント別業績

売上高：円高による換算差と米州・中国の売上減が響き減収

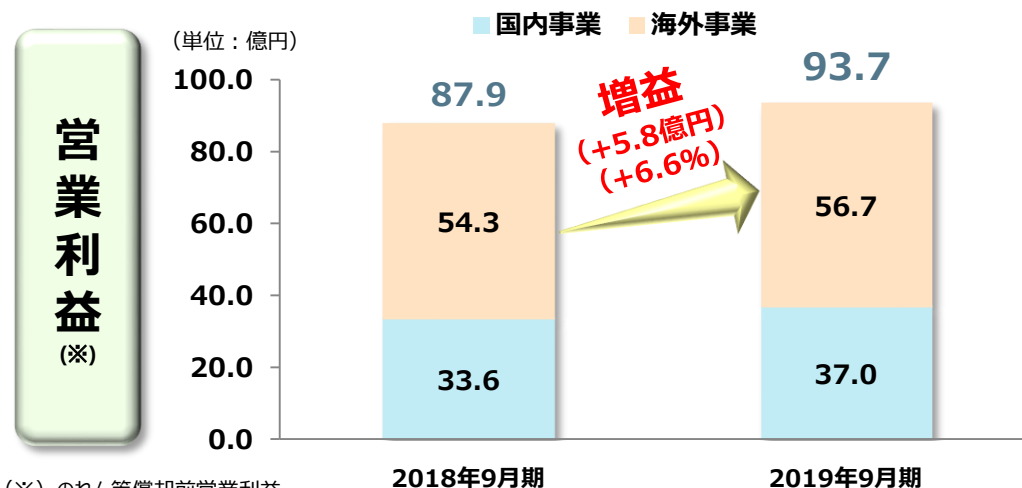


地域別内訳（2019年9月期）

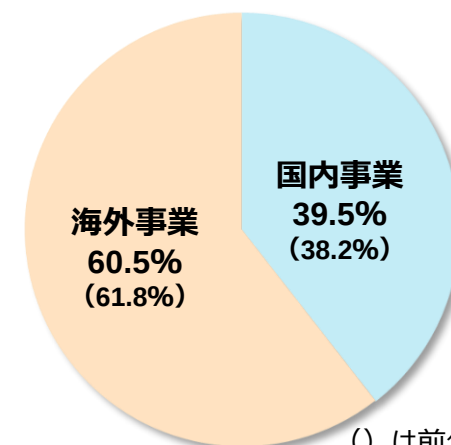


() は前年実績

営業利益(※)：販価改善効果の刈り取り、原価低減等が寄与したことにより増益



セグメント別内訳（2019年9月期）

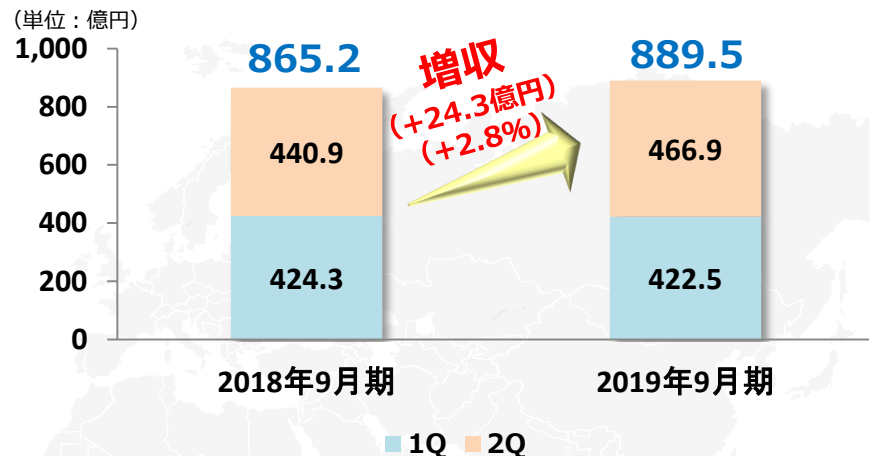


() は前年実績

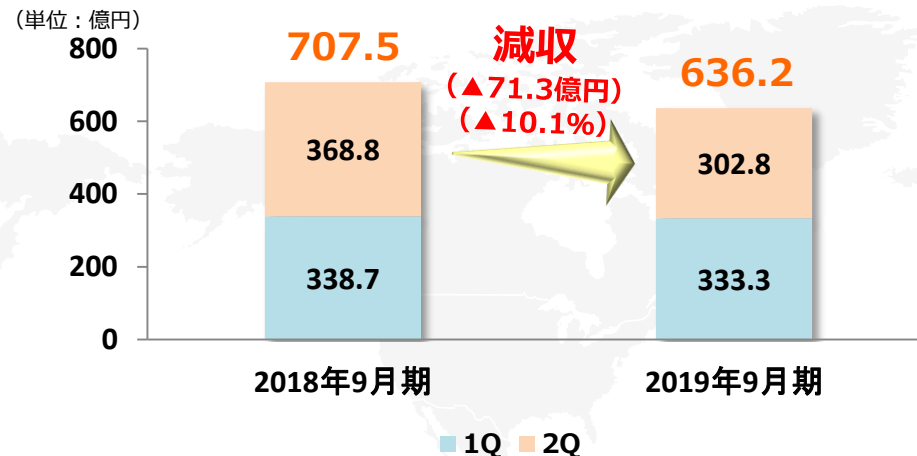
(※) のれん等償却前営業利益

4. 地域別売上高 (為替影響含む)

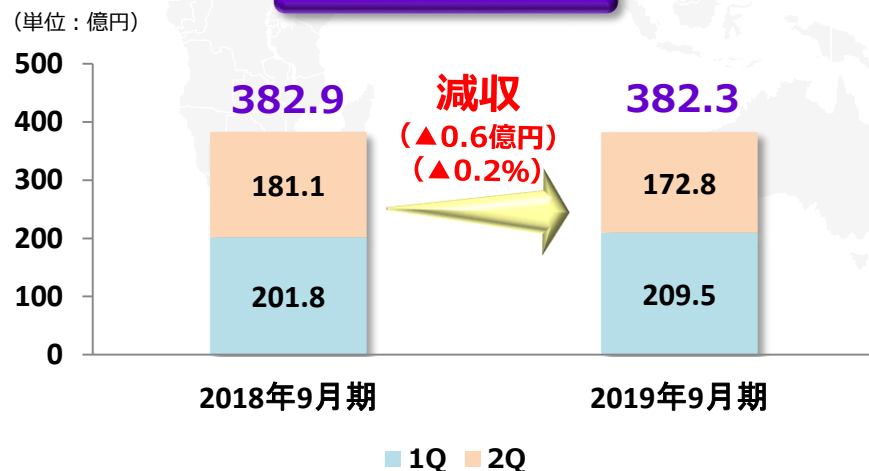
日本



米州



欧州



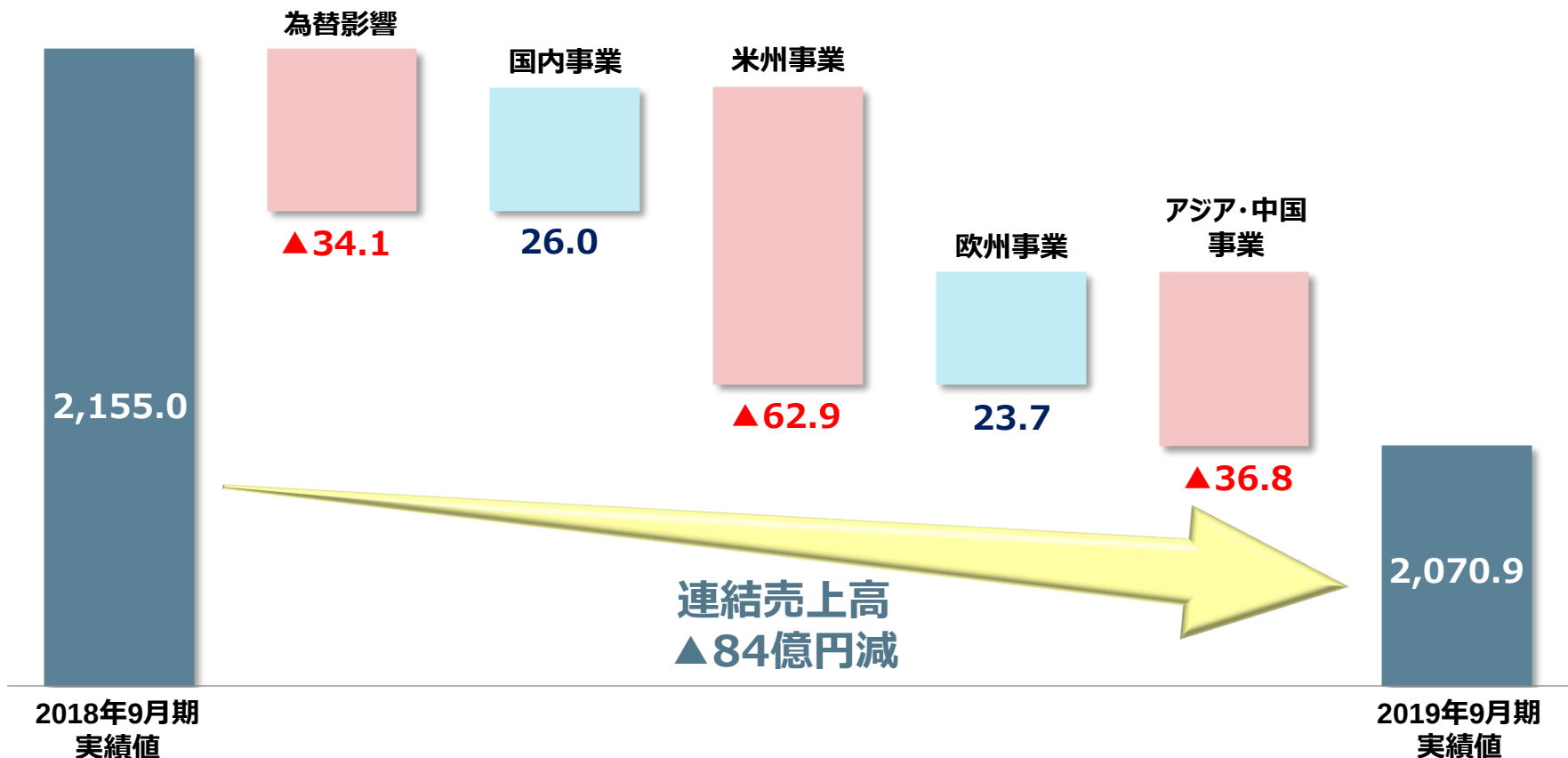
アジア・中国



5. 連結売上高増減要因（前年同期実績対比）

国内・欧州は堅調だったものの主に米州及び中国の売上減少により減収
（2Q決算では米州販売会社のEQD社はB/Sのみ連結でP/Lは未取込）

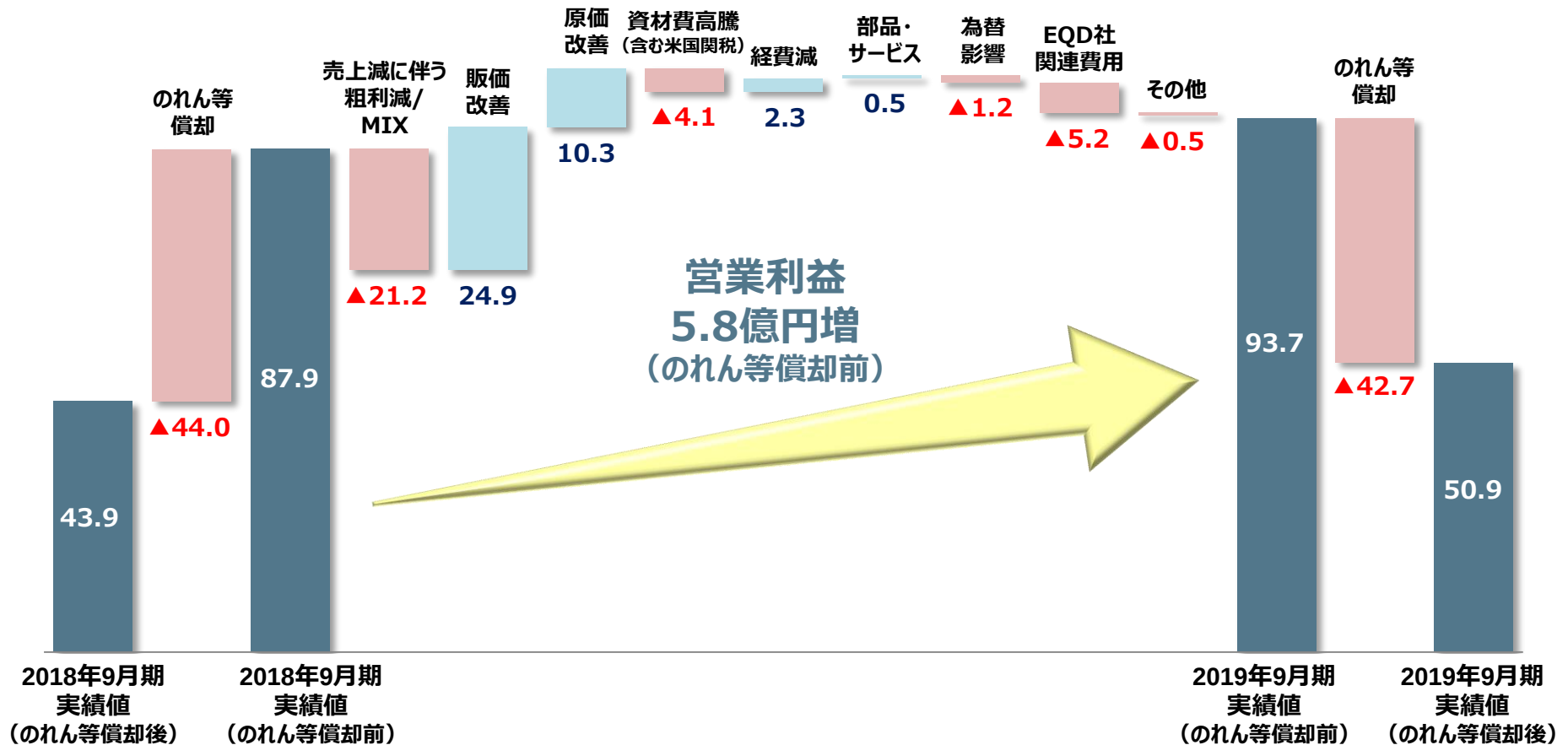
（単位：億円）



6. 連結営業利益増減要因（前年同期実績対比）

- 米州、中国での売上減による粗利減やEQD社関連費用増
- 販価改善効果の刈り取り、原価低減等でカバーし増益を確保

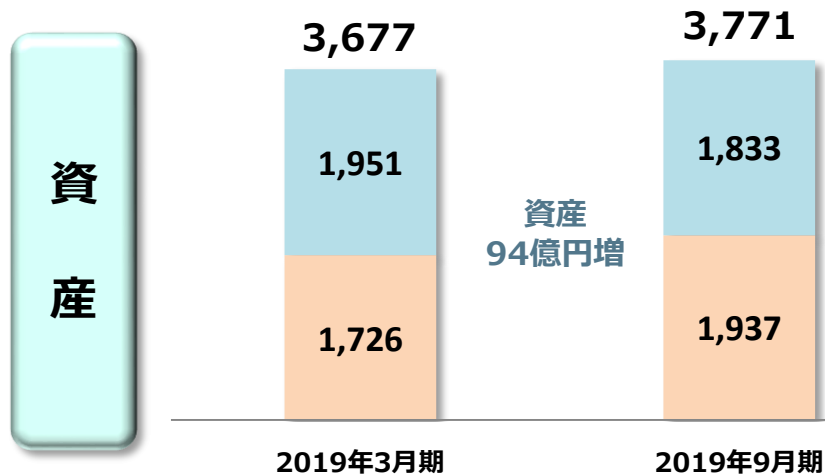
（単位：億円）



7. 連結貸借対照表

EQD社の新規連結及びEQD社買収に伴う借入金の増加により総資産・負債は増加

(単位：億円)



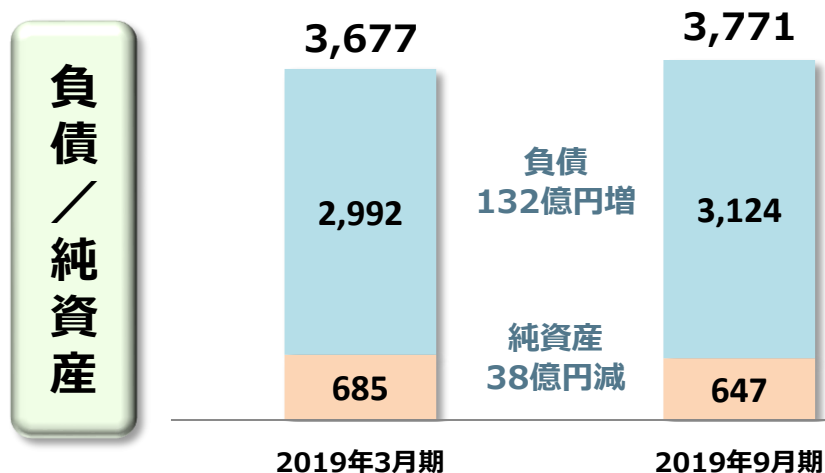
項目	2019年 3月期	2019年 9月期	増減
流動資産	1,951	1,833	▲ 118
（有形固定資産）	846	1,000	+154
（無形固定資産）	680	765	+85
（投資その他）	200	172	▲ 28
固定資産計	1,726	1,937	+211
資産合計	3,677	3,771	+94

流動資産：減

短期貸付金の減少等（EQD社買収資金捻出）

固定資産：増

EQD社の新規連結による増加



項目	2019年 3月期	2019年 9月期	増減
流動負債	1,535	1,540	+5
固定負債	1,457	1,584	+127
負債合計	2,992	3,124	+132
純資産計	685	647	▲ 38
負債・純資産合計	3,677	3,771	+94

負債：増

借入金の増加等（主にEQD社買収資金調達による）

純資産：減

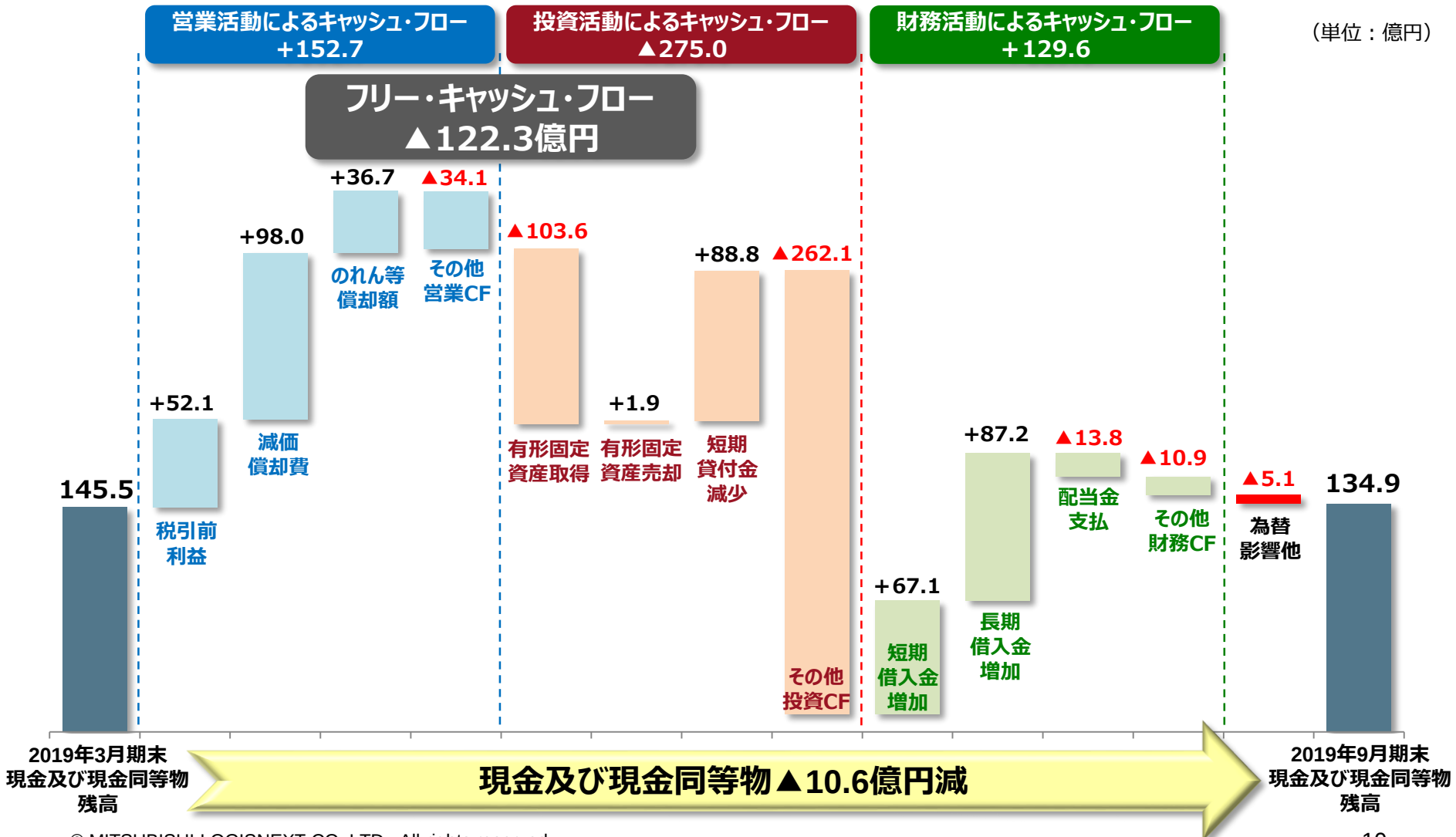
為替換算調整勘定の減少等

8. キャッシュフローの状況

フリー・キャッシュ・フロー▲122.3億円。但し、EQD社買収影響^(※)を除くと+41.1億円

※EQD社買収資金支払額－米州のMHI-CMS貸付金取崩額

(単位：億円)



9. 2020年3月期通期業績見通し

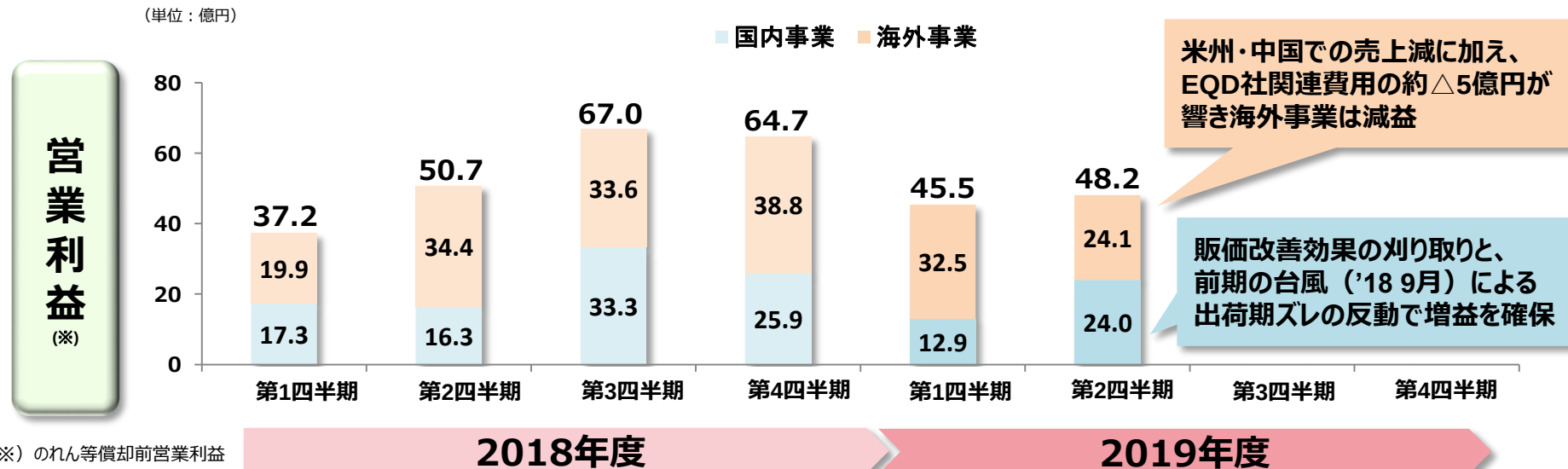
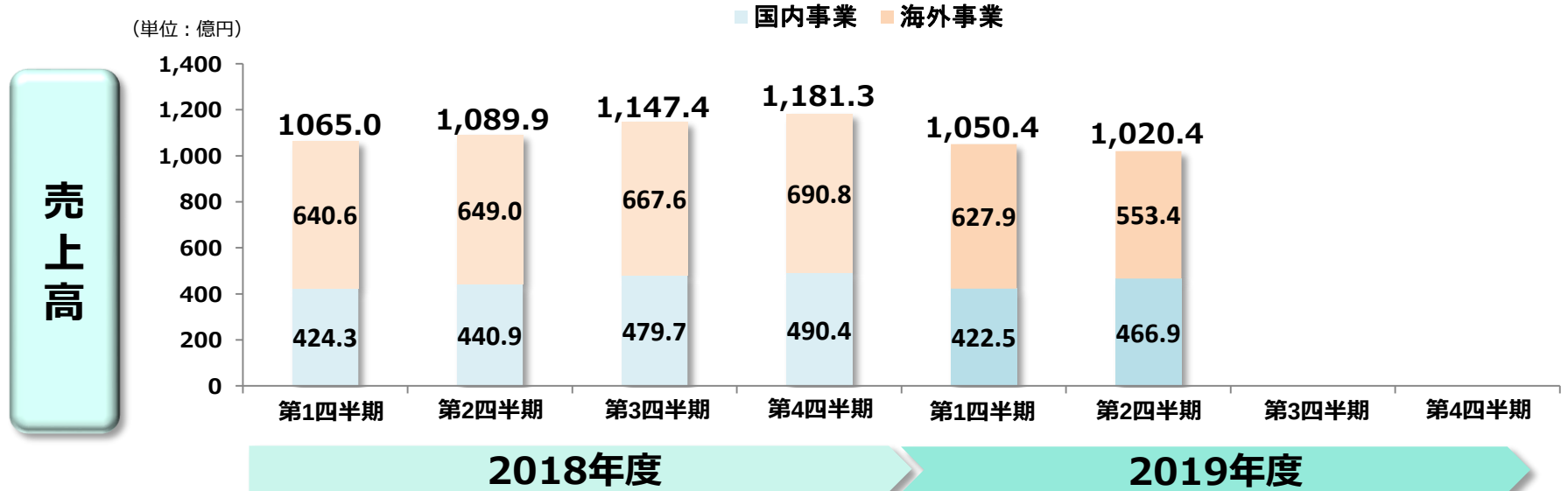
(単位：億円)

項目	2019年9月期 (実績)	2020年3月期 (予想)
販売台数	52千台	119千台
売上高	2,070.9	4,900
営業利益 (のれん等償却前) (営業利益率)	93.7 (4.5%)	250.0 (5.1%)
のれん等償却	42.7	110.0
営業利益 (のれん等償却後) (営業利益率)	50.9 (2.5%)	140.0 (2.9%)
経常利益 (経常利益率)	47.9 (2.3%)	130.0 (2.7%)
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	20.9 (1.0%)	70.0 (1.4%)
1株あたり配当	—	13円

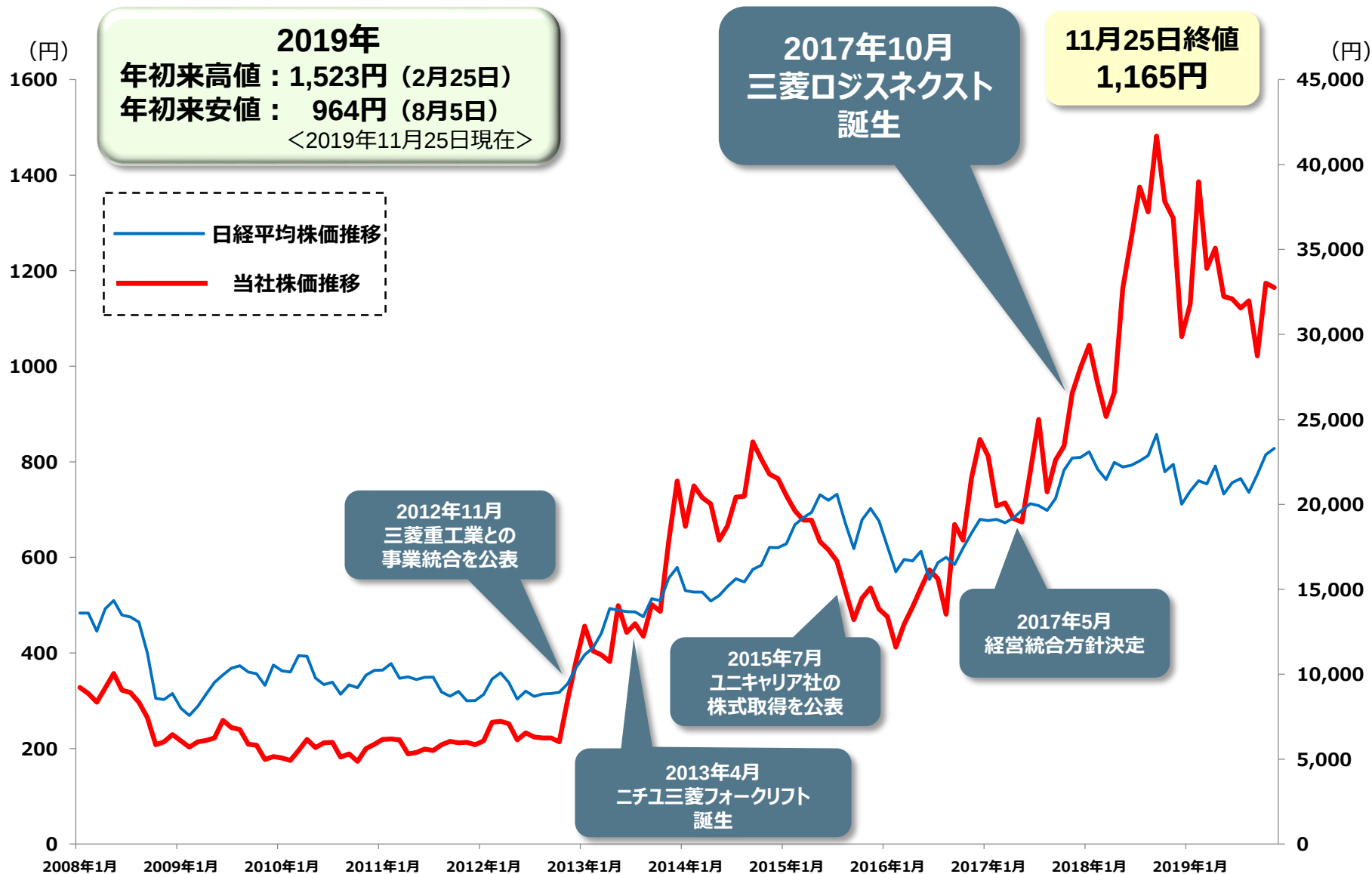
2020年3月期計画レート：USD=110円 EUR=125円 CNY=16円

	指標	算式	2019年3月期		2019年9月期		コメント
				(のれん償却前)		(のれん償却前)	
総合	総資本利益率（ROA）	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{総資本}}$	1.9%	(4.2%)	1.9%	(4.0%)	前期の中国子会社譲渡損失の当期損金算入に伴う税効果取り崩しが響き悪化 (ROA/ROEは上期の当期純利益を2倍して計算している)
	自己資本利益率（ROE）	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本}}$	11.2%	(20.4%)	10.5%	(17.3%)	
収益性	売上高営業利益率	$\frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}}$	2.9%	(4.9%)	2.5%	(4.7%)	
	売上高当期利益率	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{売上高}}$	1.6%	(3.5%)	1.0%	(3.2%)	
効率性	総資本回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{総資本}}$	1.2回		1.3回		
	売上債権回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{売上債権}}$	5.8回		6.5回		
	棚卸資産回転率	$\frac{\text{売上原価}}{\text{棚卸資産}}$	5.6回		5.8回		
安全性	自己資本比率	$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}}$	18.0%		16.5%		円高による為替換算調整勘定の減少及びEQD社買収に伴う借入金増が響き悪化
	D/Eレシオ	$\frac{\text{有利子負債}}{\text{株主資本}}$	2.5倍		3.0倍		
株主関連	1株あたり利益	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{発行済株式数}}$	66.48円		39.34円		
	株価収益率（PER）	$\frac{\text{株価}}{\text{1株あたり利益}}$	18.1倍		26.0倍		株価： 2019年3月期末：1,205円 2019年9月期末：1,022円
	株価純資産倍率（PBR）	$\frac{\text{株価}}{\text{1株あたり純資産}}$	1.9倍		1.8倍		

【参考資料】四半期推移



【参考資料】株価の推移



商 号	三菱ロジスネクスト株式会社 (Mitsubishi Logisnext Co., Ltd.)
本社所在地	京都府長岡京市東神足2丁目1番1号
設 立	1937年8月
代 表 者	代表取締役社長 御子神 隆
資 本 金	48億94百万円
事業内容	バッテリーフォークリフト、エンジンフォークリフト、 搬送用ロボット、自動倉庫、WMS等の物流システム商品、 土木建設機械、産業用エンジン、ミッション等の開発・設計・ 製造・販売
事 業 所	【国内】京都・滋賀 他 【海外】米国・欧州・中国・アジア 他
連結従業員数	約13,000名
年間生産能力	約121,000台

【参考資料】国内生産／販売拠点

生産拠点：5 直系販社：11

【三菱ロジスネクスト】

本社（京都）
事業所（東京）

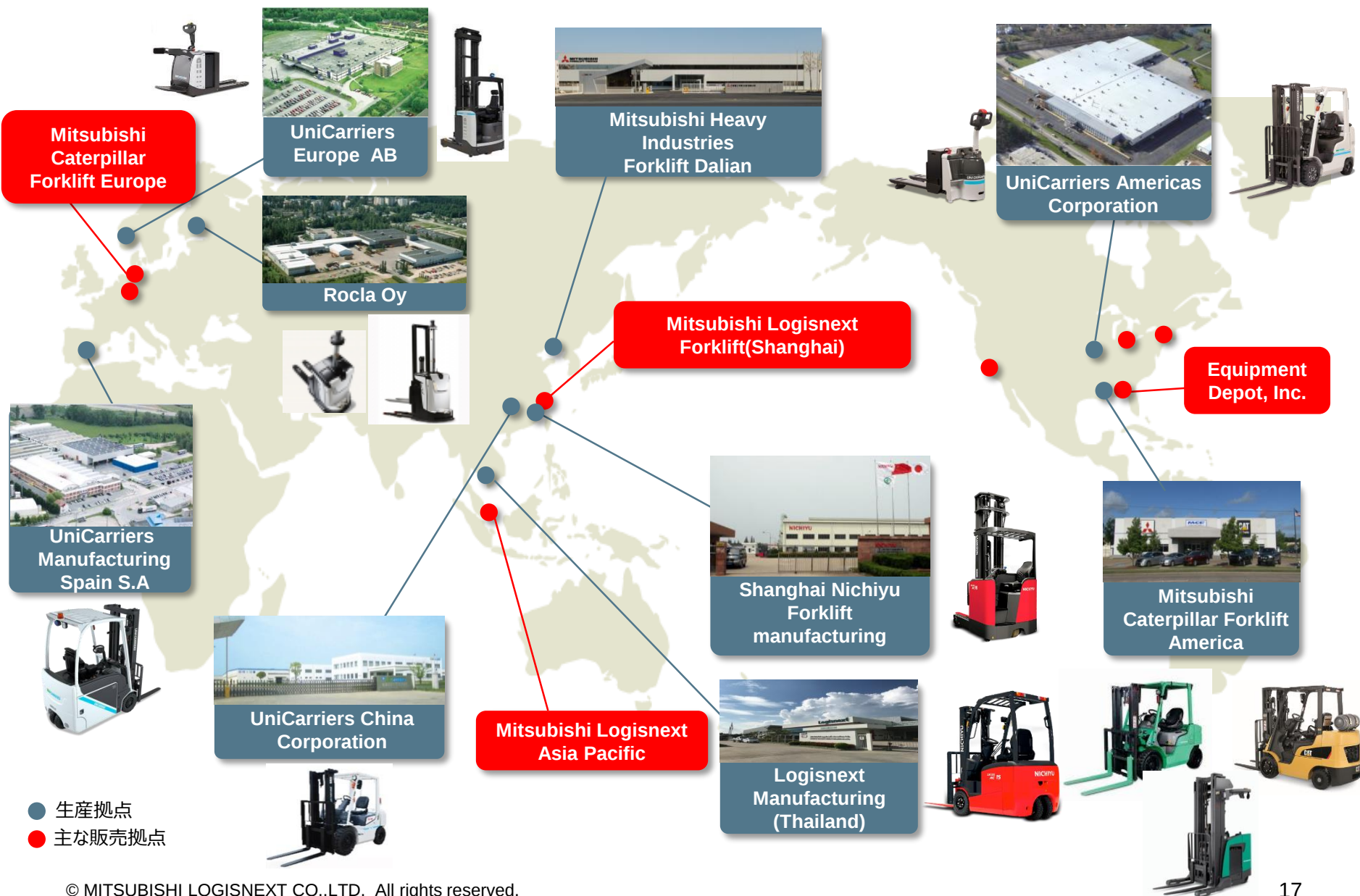
【直系販社11社】

- ①ロジスネクストユニキャリア
- ②ロジスネクスト北海道
- ③ロジスネクスト東北
- ④ロジスネクスト東京
- ⑤ロジスネクスト信越
- ⑥ロジスネクスト静岡
- ⑦ロジスネクスト中部
- ⑧ロジスネクスト近畿
- ⑨ロジスネクスト中国
- ⑩ロジスネクスト四国
- ⑪ロジスネクスト九州



【参考資料】主な海外生産／販売拠点

Logisnext



経営計画の進捗状況

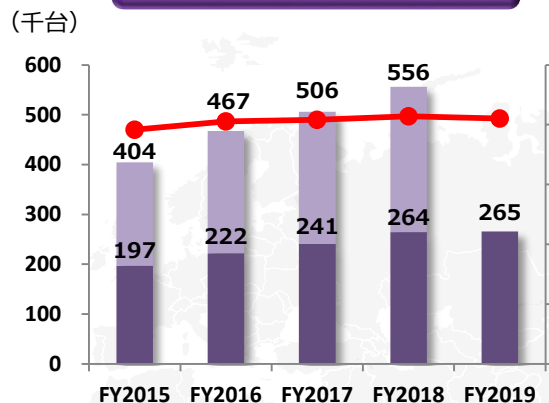
三菱ロジスネクスト株式会社
代表取締役社長 御子神 隆

1. フォークリフト市場動向【出荷】 (4月～9月)

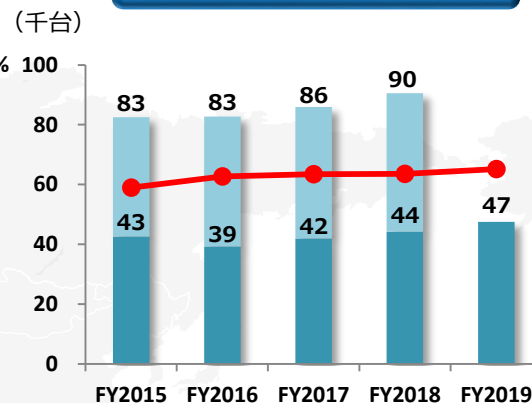
Logisnext

2019年度上期のフォークリフト市場は製造業を中心とした先行きの不透明感の高まりにより減速してきており、出荷台数は前年比▲1.6%減の744千台に留まった。

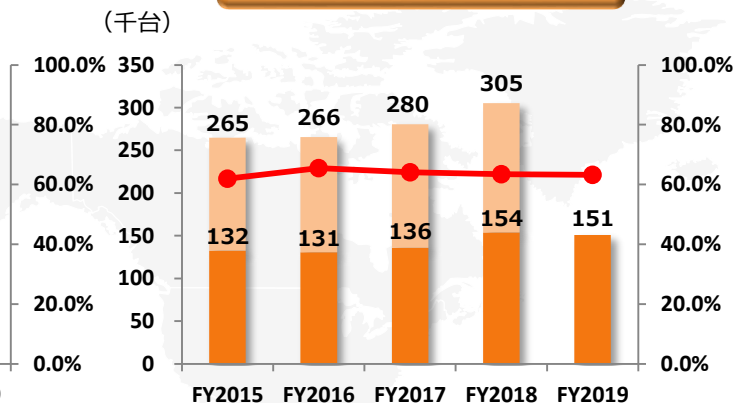
欧州 (中東・アフリカ含む)



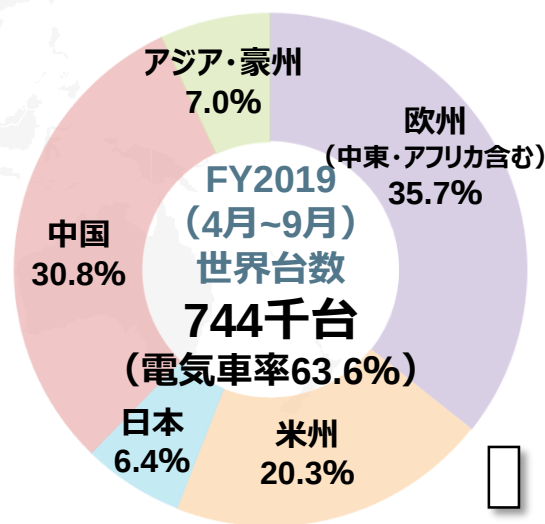
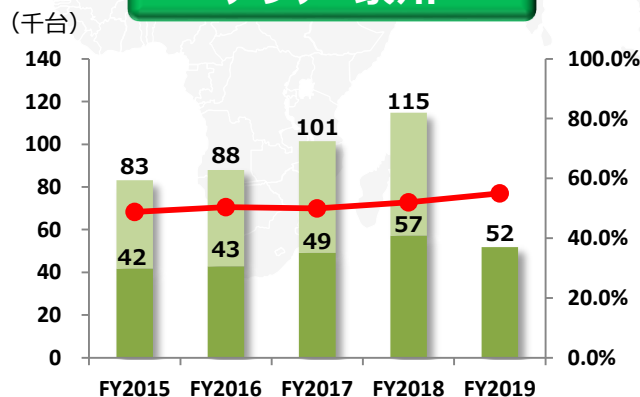
日本



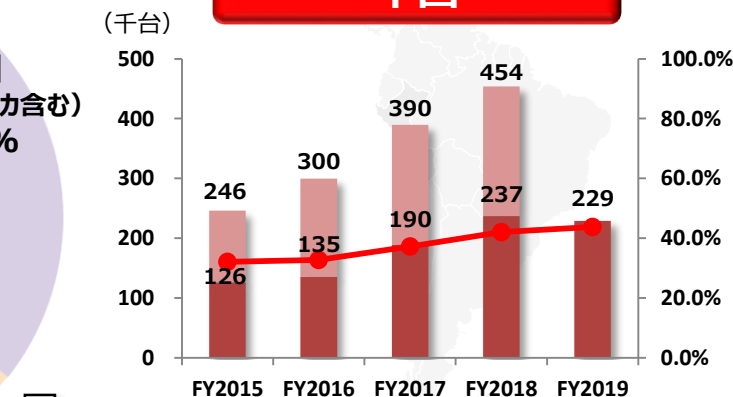
米州



アジア・豪州



中国



市場台数
電気車率

1. フォークリフト市場動向【受注】

フォークリフト市場動向分析

- 日本 : 比較的堅調な数字を示しているが、先行きは不透明。
- 米州 : 米中貿易摩擦の影響で市況が悪化。直近は下げ止まり感。
- 欧州 : 堅調に推移してきたが、受注が悪化傾向に。
- 中国 : ClassⅢ^(※) が堅調な数字を支えてきたが、実際の景況感は極めて悪い。
- アジア・豪州 : 中国の景況感の悪化を受け、急激に市場が冷え込んできている。

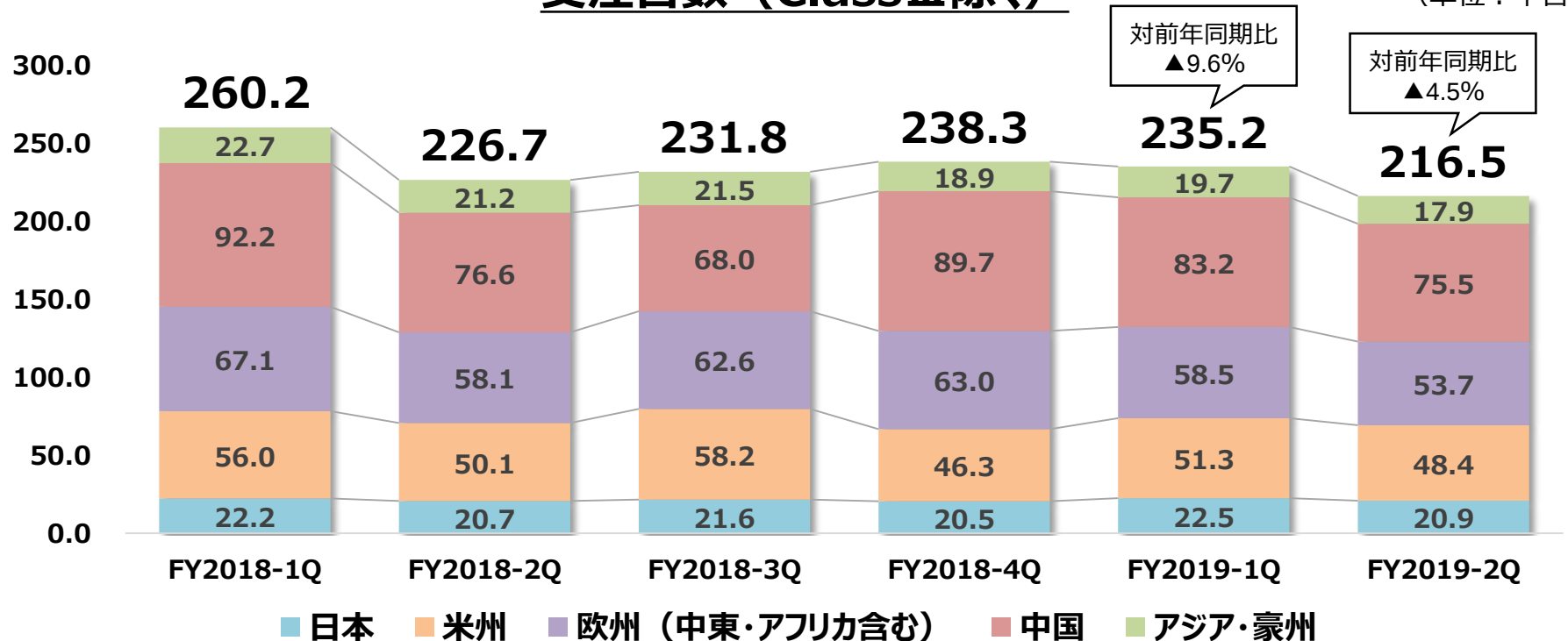


ClassⅢ例
(ローリフト)

※ClassⅢ : 自走式電動小型リフト

受注台数 (ClassⅢ除く)

(単位: 千台)



2. 2019年度通期業績見通し

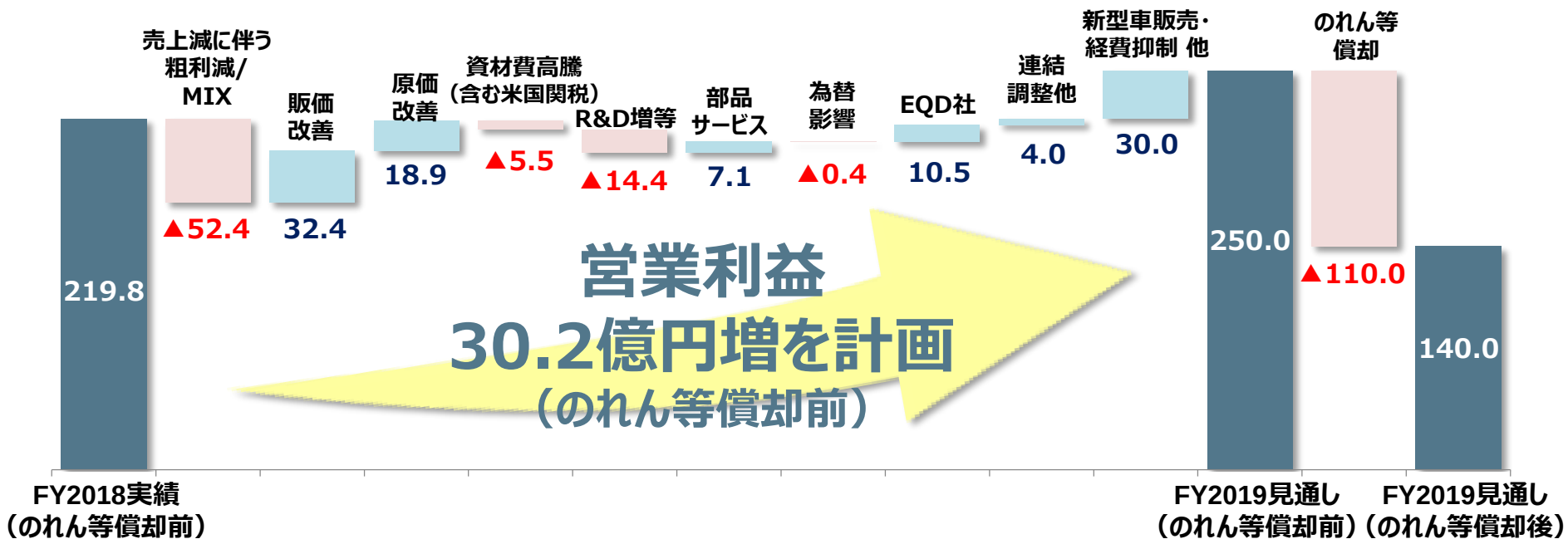
2019年度下期の重点項目

- 販価改善の確実な刈り取り
- 米国PMI推進とシナジー創出の継続
- 統合新モデルの市場投入
- 2020年に向けた国内販社再編準備

Risk & Opportunity

- 米州・中国での受注の落ち込み ↓
- PMIコストの発生 ↓
- 堅調な国内市場での販売積み増し ↑
- 原価低減、経費抑制 ↑

(単位：億円)



3. 中期経営計画進捗状況

中期経営計画達成に向け、事業拡大に向けた成長戦略とシナジーの刈取りを実行するも、当初想定していた以上にリスクが顕在化。米中の市場悪化も響く。

FY2016仮想連結 →FY2018実績

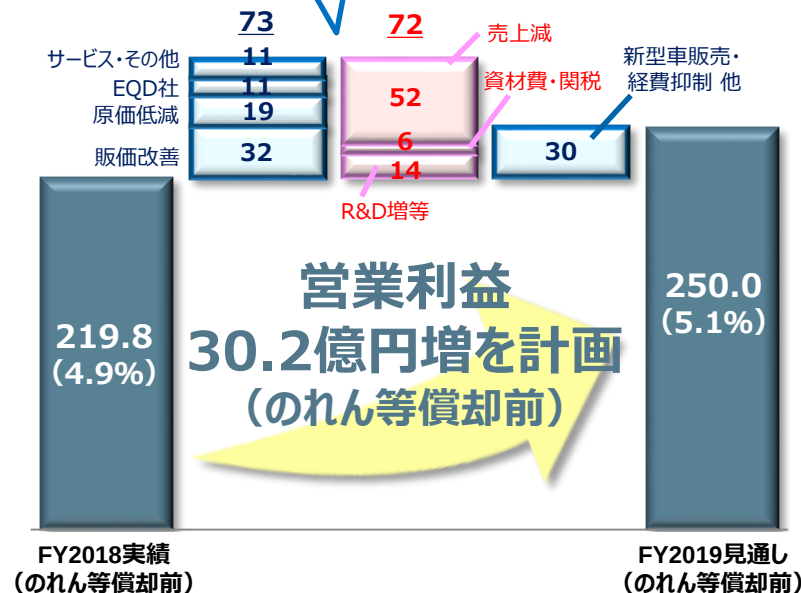
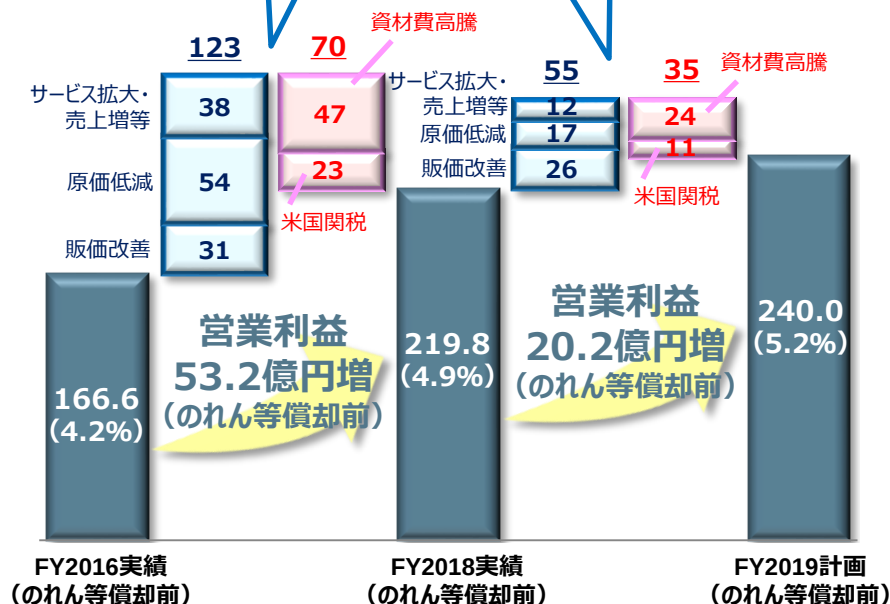
原価低減を中心とした
シナジー創出を実現
するも、資材費高騰と
米国関税が響く。

FY2018実績→ FY2019計画

- ・米国関税が通年で影響。
- ・原材料市況も更なる悪化を見込む。
- ・更なるシナジー創出、販価改善で増益見込む。

FY2018実績→FY2019見通し

- ・市場悪化に伴い売上減少。
- ・EQD社買収により収益増。
- ・資材費高騰は見込みより減少。
- ・販価改善は想定通り
- ・原価低減等更なるシナジー創出。



4. 経営資源の選択と集中

■ 巻取機事業の譲渡（11月1日付）

➤ 物流機器ビジネスへの特化

- ・ 子会社ニチュマシナリーの全株式を（株）日本製鋼所に譲渡。
- ・ 当事業譲渡により日本製鋼所はフルライン生産が完成し、当社は物流機器ビジネスへの特化で両社得意分野へのリソース集中を実現。



2軸ロータリー巻取機

ニチュマシナリー株式会社 会社概要

所在地	滋賀県近江八幡市安土町西老蘇8番地1（当社安土工場内）
事業内容	各種巻出機・巻取機の開発・設計・製作・販売、部品販売及び整備・点検等サービス業務、関連商品の仕入販売
資本金	40百万円（2019年3月31日現在）
設立年	1999年（旧日本輸送機株式会社の巻取機事業を分社化）

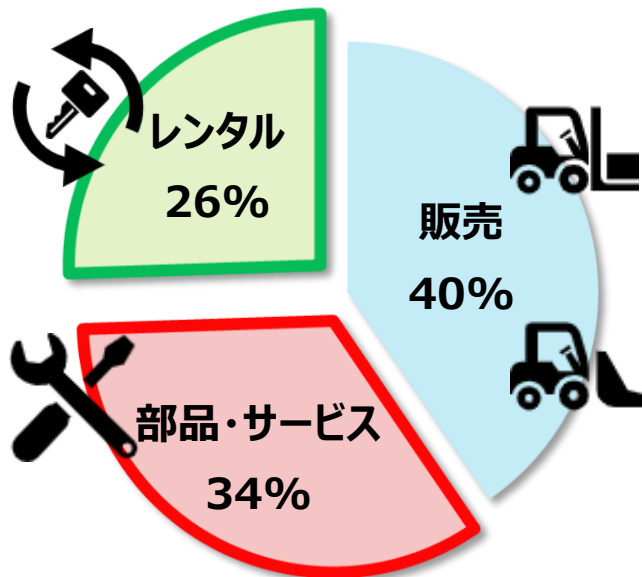
5. 販売事業の強化

■EQD社との統合

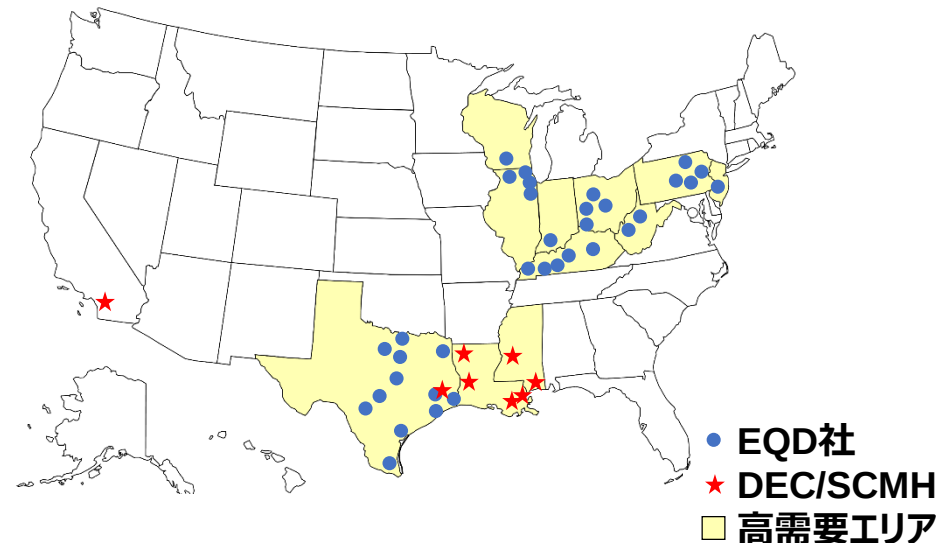
➤ 直販会社の再編成

- 北米の直販会社2社（DEC/SCMH）をEQD社の傘下へと再編成。EQD社の持つアフターセールスやレンタル事業ノウハウを水平展開し、収益性の向上を追求する。
- 今後も北米市場における直販事業・サービス事業の強化によって新たなビジネスモデルを構築し、安定した経営基盤の確立を目指す。

EQD社の売上内訳（2018年度）



EQD社サービス拠点：43拠点に

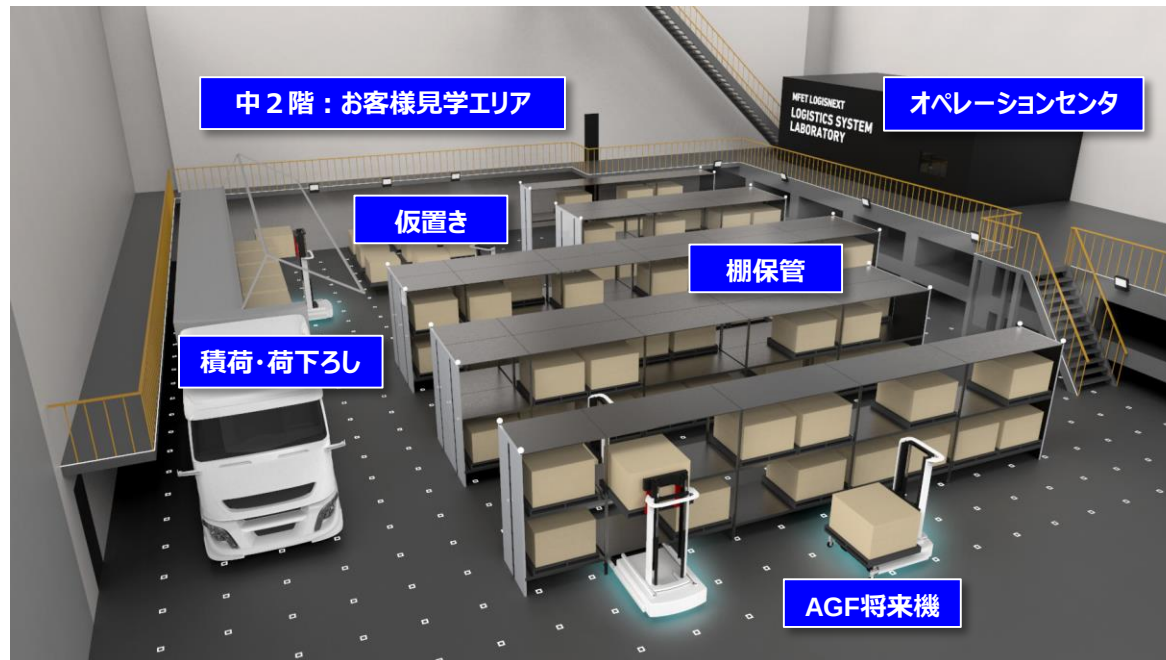


6. 物流ソリューション領域の拡大

■ 物流実験センター設置

➤ オープンイノベーションによる新規ビジネスの創出

- AGV・AGF^(※1)の拡販と技術向上を目的として三菱重工業（株）総合研究所の高砂地区内に物流実験センターを設置。
- 当施設を通じて社内外のイノベーションを生み出し、お客様へ最適ソリューションの提供を目指す。



※1 AGV：無人搬送車（Automated Guided Vehicle）
AGF：無人フォークリフト（Automated Guided Forklift）

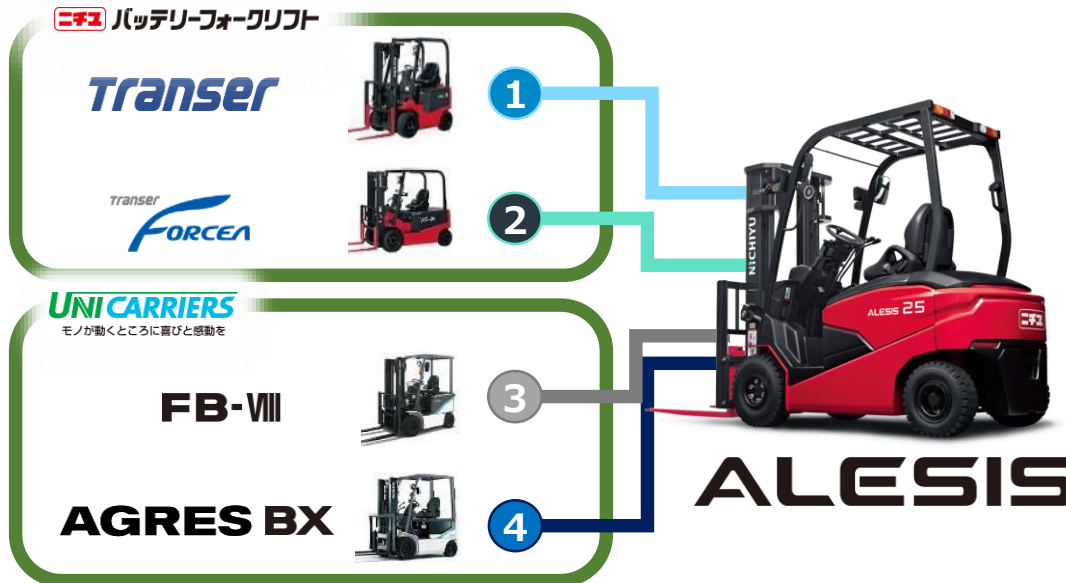
物流実験センター構想

7. 新型モデルの発売

■ カウンターバランス電気車のモデルチェンジ

➤ 機種統合

- 統合後初の新型モデル「**ALESIS**」を2019年11月に発売。それぞれの強みを結集し、4機種を1機種に統合。
- 今後も機種統合を進め、生産効率を向上させるとともに市場プレゼンスの拡大を目指す。



「ALESIS」の概要	
機 種	0.9-2.5トン バッテリー式4輪カウンタ型フォークリフト
主要市場	日本 海外（アジア・オセアニア・CIS・AME）
生産工場	日本（滋賀工場） 海外（タイ工場＜LMT＞）
販売開始	2019年11月13日

8. 新型モデルの発売

■ 開発コンセプト

デザイン

- 誰もが乗りたがる かっこいいデザイン

安全

- あらゆる操作が 安全 にできるフォークリフト
 - ・走行時の安定性向上
 - ・作業補助機能、危険動作防止機能の充実
 - ・容易なバッテリー交換 ・優れた乗降性

使い易い・快適

- 誰もが簡単に操作できる 安心 フォークリフト
 - ・低いステップ ・広いフロア
 - ・他社から乗り換えても、満足のいく居住性の確保

省エネ

- 長時間稼働とバッテリーの長寿命化



注意事項

- 本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料における将来予測に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。
- 将来における当社の業績が、現在の当社の将来予測と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- 業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、安全性を保障するものではありません。
- 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

本資料に関するお問い合わせ

三菱ロジスネクスト株式会社 財務企画部企画課 荻屋・柏木

〒617-8585 京都府長岡京市東神足2-1-1

TEL : 075-956-8610 FAX : 075-951-4038

URL : www.logisnext.com

Logisnext

三菱ロジスネクスト株式会社